



世界史探究 新訂版

一問いを精緻化して、生徒の歴史的思考力を育む一

東京外国語大学・武蔵大学
非常勤講師 米山 宏史

はじめに

「世界史探究」が始まり3年が経過し、授業実践の成果が期待されている。そこで、新訂版の制作にあたり、私たち編修委員は編修部と協力し、現行版の構成（4部18章）とコンセプトを踏襲し、部分的な改善を図ることを目標に定め、改訂作業に着手した。全国の高校教員のアンケート調査の改善意見を視野に入れ、3つの観点（必要な学習事項の掲載、文章表現や問いの的確さ、諸資料やコラムの有用性）を重視し、全頁の校閲作業を行った。次に、各自が気づいた事項をまとめて会議で共有し、さらに編修委員と執筆者が時代別の5つの会議を通じて各頁の改訂や変更の箇所を話し合い、執筆活動に入った。以下、新訂版でリニューアルされた幾つかの点を紹介する。

改訂のポイント

第1に、Try（節のまとめの問い）に関して、20数カ所で問いの変更や入れ替え、問いの加筆や語句の補充を行い、問いの精緻化を図った。たとえば、「イスラームが短期間で勢力を大きく広げることができたのはなぜだろうか」という問い（103頁）に「ジハードや課税、アッバース朝時代の変化に注目して考えてみよう」という考察の観点を追加し、問いの精緻化と思考の正確化を図った。

第2は、ACTIVE（歴史を資料から考える）の資料と問いの変更である。その1つは「キリスト教圏とイスラーム圏」（124～125頁）で、資料①～③を入れ替え、ビザンツとイスラームからみた十字軍観の差を捉えやすくするとともに、資料③（ファーティマ朝の指導者らが十字軍に好意的という内容）からイスラーム圏における多様な十字軍観を知ることができるよう工夫を行った。資料④の問いも変更し、フリードリヒ2世とアイユーブ朝スル

タンとの和平の理由を考えさせるように改めた。同じように、「なぜ人々はナチ党を支持したのか」（328～329頁）でも資料②～③を変更し、問いをナチ党の台頭の理由説明から、近年の研究成果をふまえ、ナチ党の民族共同体論とユダヤ人、障がい者への迫害の関係を考える問いに変えている。

第3は、諸資料の読解による思考力の向上を意識し、「〇世紀の世界」で問いを改訂したことである。「1～2世紀の世界」の「大秦国と後漢の通交」（87頁）では、『後漢書』に関する2つの問いを、後漢の甘英が条支（シリア）まで行った意義は何か、筆者は安息が大秦と後漢の通交を「妨害」した理由をどう記述しているかに変更し、資料をより深く読み取り、考察を行う学習場面を設けた。「16～19世紀の世界」の「西アフリカから南北アメリカへ」（212頁）、「19～20世紀初頭の世界」の「東南アジアへの移民」（271頁）でも問いの一部修正を行い、生徒の資料読解力の深化を図っている。

第4は、Key WordやApproachの追加、一部変更、差し替えである。Key Wordでは、イェルサレムの用語解説を新設し（122頁）、3つの一神教の聖地という特徴を明記した。Approachでは「イギリスの支配とカースト（ジャーティ）制度」（283頁）の記述を一部変更し、また、「東アジア共同体構想」を「南アジアの発展」に差し替え（370頁）、研究の進展や社会の現実を反映したより正確な記述を通じて新しい見方・考え方を提示した。

第5は、小見出しや本文記述の変更である。たとえば、小見出し「グプタ朝とインド古典文化」を「ヒンドゥー教成立とグプタ朝」に改め、本文記述もヒンドゥー教の形成とその特徴、グプタ朝の成立、インド古典文化の開花の順に変更し、ヒンドゥー教の普遍的な特徴を把握した上で、グプタ朝とインド古典文化の理解を深められるよう再構成した（58～59頁）。

こうして、今回の改訂では、生徒の資料読解力と歴史的思考力の深化に資することを意図し、問いの精緻化に重点をおいて作業を行った。本書新訂版が全国の学校で幅広く、有効に活用されることを期待している。